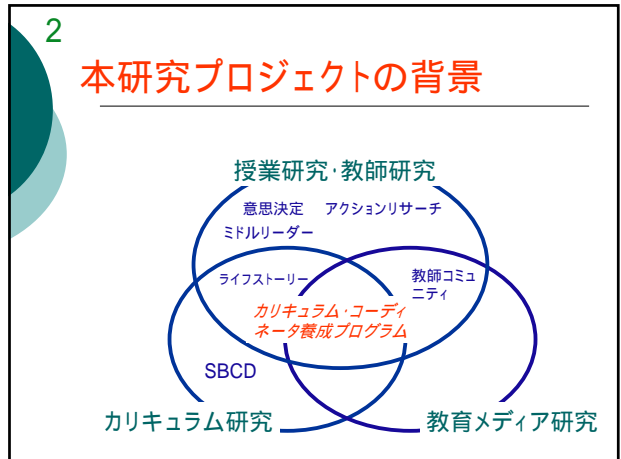


1  
 2005.2.5  
 BEAT プロジェクト成果報告会

---

**eCCプロジェクトの実際**  
 (e-Learning project for Curriculum Coordinator)

大阪市立大学・木原俊行  
<http://toshiyukikihara.cocolog-nifty.com/>

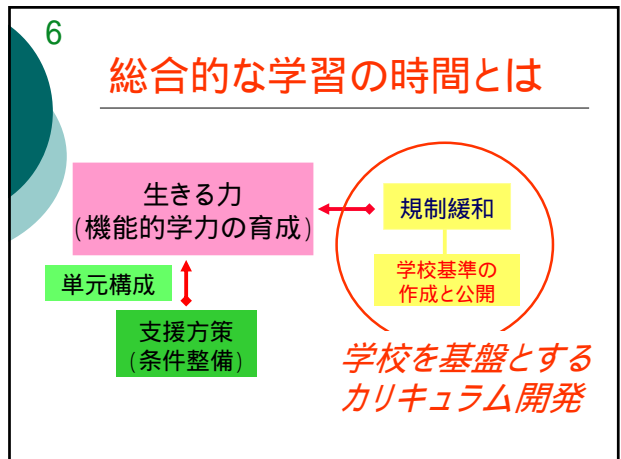
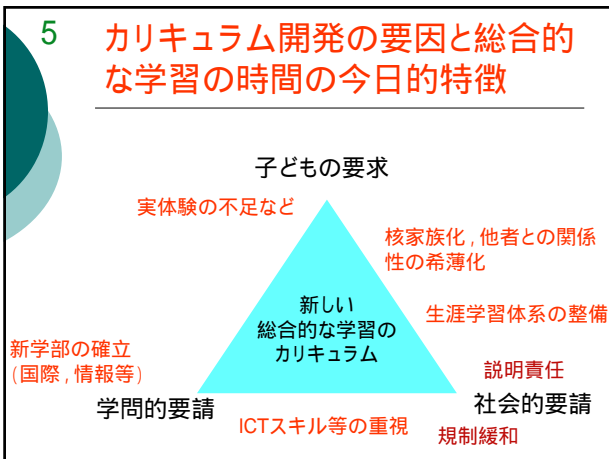



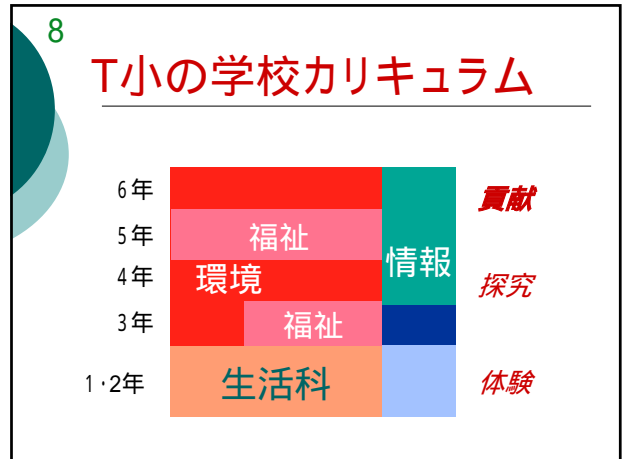
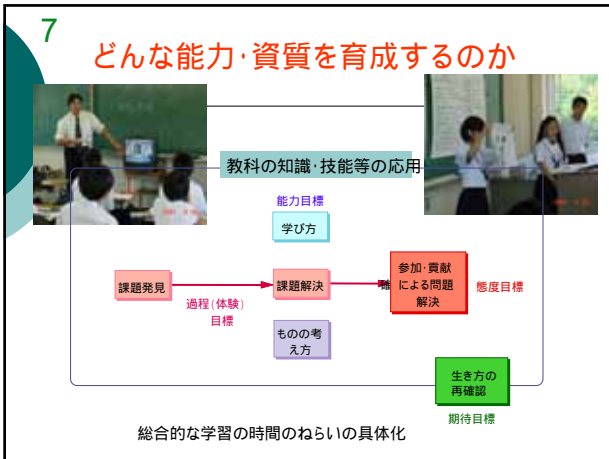
3  
**研究プロジェクトの特徴**

- 学校のミドルリーダーたるカリキュラムコーディネータを対象とする教員研修プログラム
- 総合的な学習の時間のカリキュラム・コーディネーションに必要とされる知識 (複雑な = 多領域に渡りかつ相互に関連する知識, カリキュラム開発の手続きに関する知識) の定着と体系化を研修の目的としている
- それを促すために「ファシリテータ」を準備している
- Blended-Learning, とりわけWebベースのテレビ会議システムを活用した, 学校のミドルリーダー研修プログラムのデザインを提案する

4 「総合的な学習の時間」の教育課程上の位置づけ

- 小学校は第3学年以上に, 105 ~ 110単位時間 (全授業時数の1割程度)
- 中学校は, 第1学年に70 ~ 100単位時間, 第2学年に70 ~ 105単位時間, 第3学年に70 ~ 130単位時間
- 高等学校は卒業までに3 ~ 6単位





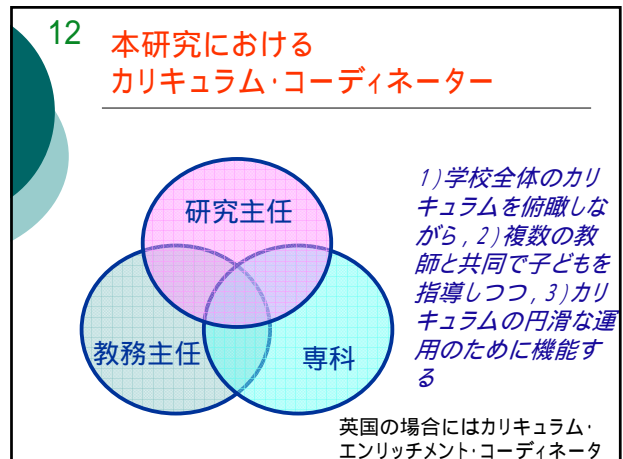
### 10 実施状況

ベネッセ教育総研の第3回学習指導基本調査から  
 (2002年10月実施, 7007名が回答)

- 創意工夫して授業プランを組み立てる機会が増えた(小学校教諭の93.6%, 中学校教諭の84.8%)
- 教師間の情報交換や連携が強化された(小学校教諭の82.4%, 中学校教諭の78.5%)
- 教師の力量差が目立つようになった(小学校教諭の69.6%, 中学校教諭の56.4%)
- 教師によって負担の差が大きくなった(小学校教諭の68.6%, 中学校教諭の82.7%)

総合的な学習の時間のカリキュラム開発は、教師たちに、より厳しいディレンママネージングを養成している

- ### 11 なぜ、eCCプロジェクトなのか
- 学校を基盤とするカリキュラム開発は今日「必然的な様式」と理解すべきである
  - 複数の教師による共同的意思決定(葛藤と妥協が必要)である
  - それを推進するリーダー=カリキュラム・コーディネータは、「知識」や「方策」を有する必要がある
  - その獲得にはコーチング等が有効であると思われるが、身近にはカリキュラム・コーディネータは存在しない



### 13 カリキュラム・コーディネータが その役割を遂行する難しさ

- カリキュラム・コーディネータたる教師Tが抱く葛藤の特徴
  - 授業設計時に頻繁
  - 長期的ビジョンがその原因になる
  - 多元性を持つ

カリキュラム開発に伴う葛藤を克服し、カリキュラムを  
発展させるための方策(コーディネーション方策)

14

### 研究目的

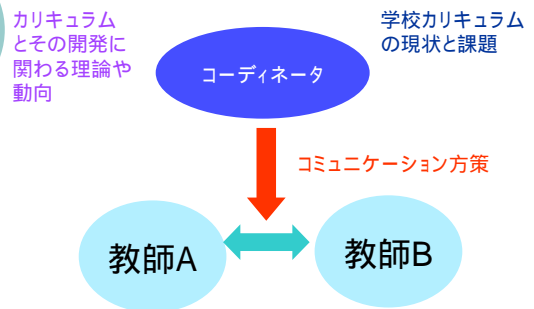
- 学校のミドルリーダーたるカリキュラムコーディネータの資質・能力、特にカリキュラム開発に関する知識(宣言的、手続き的)の**定着と体系化**を目標とする、e-Learningモデル(概念モデル、プログラムモデル)の開発と評価
- (実践的スキルの獲得や態度の形成までは今回は目標とはしない)

### 15 プロジェクトの参加者

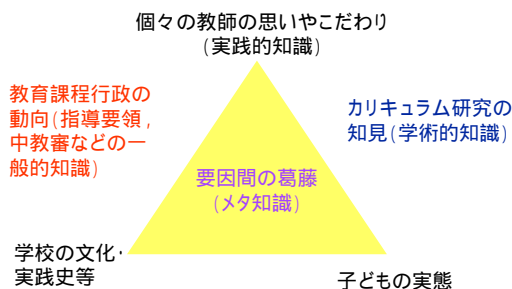
- 参加者 = 全国各地の中堅～ベテラン(教職経験14年～26年目)の小学校教員8名(男女4名ずつ)
- ファシリテータ = 「総合専科」教員経験のある小学校教諭2名
- コーディネータ = カリキュラム開発や授業研究、学習環境論を専門とする研究者4名
- システム運用を支援する大学院生1名

16

### カリキュラム・コーディネーションの構造



### 17 カリキュラム開発に関わる 知識体系(目標)



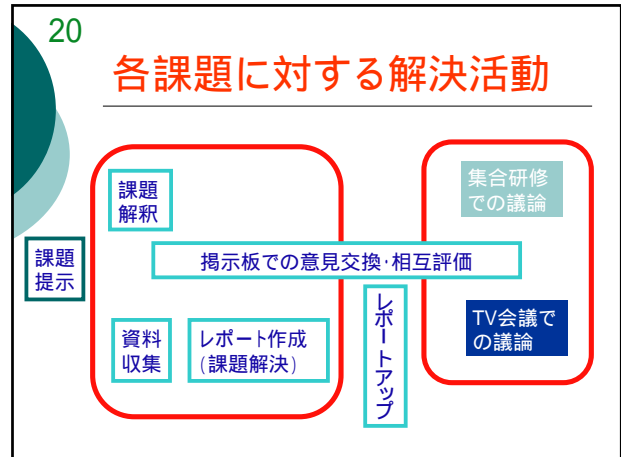
18

### プログラムの概要(課題系列)

- 事前アンケート
- 第1課題:カリキュラム開発事例の検討(6月中旬～8月)
  - レポート作成・提出, 集合研修で相互評価
- 第2課題:自校カリキュラムの長短所の同定(9月～10月)
  - レポート作成・提出, テレビ会議による相互評価
- 第3課題:カリキュラムコーディネーションに関するケース研究(11月～12月)
  - レポート作成・提出, テレビ会議による相互評価
- 事後アンケート


19 **より具体的な課題内容**

- 第1課題: S学校の総合的な学習プランについて, その長短所を整理しなさい。(学術的知識, 一般的知識)
- 第2課題: 所属校の総合的な学習のカリキュラムの特徴をグループの他のメンバーにプレゼンテーションしなさい。(実践的知識, それと一般的知識等の異同)
- 第3課題: T小学校のカリキュラム開発記録を読んで, その問題点を克服するためのアクションプランを策定しなさい。(実践的知識間の葛藤 = メタ知識)



21 **ファシリテータに期待される役割**

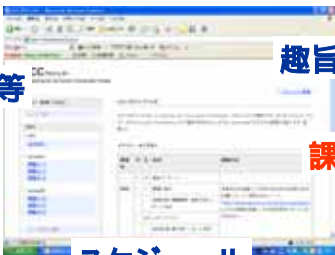
- 課題解釈及び資料収集の案内役
- 掲示板やテレビ会議での相互評価に対するコミュニケーション調整役
- レポートや発言に対する批判的コメント提供役



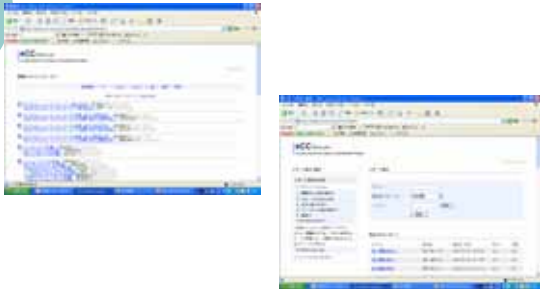
22 **eCCプロジェクトのツールやコンテンツ**

- メールングリスト: 全員用, スタッフ用
- Webページ
  - 自己紹介, 日程
  - 課題提示
  - 掲示板 (投稿者に返信を通知する機能付き)
  - ファイルキャビネット
- テレビ会議システム

23 **プロジェクトのWebページ  
トップページ**

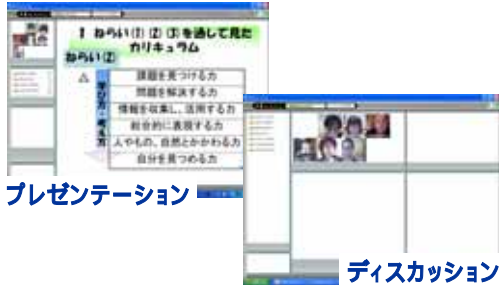


24 **プロジェクトのWebページ  
掲示板及びファイルキャビネット**



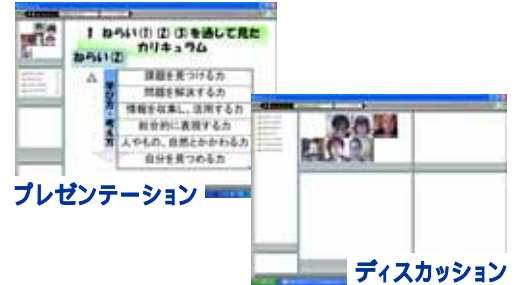
25

## テレビ会議の様相



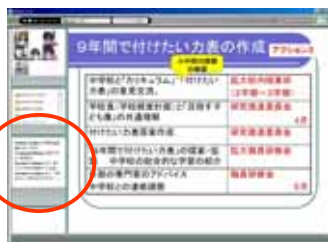
26

## テレビ会議の様相



27

## テレビ会議の裏側では



コーディネータからファシリテータへの指示など

28

## 第1回目のテレビ会議の感想 ~ 運用面について1 ~

- 参加者Y
  - プレゼンを画面を見ながら話を聞くことができるので、テレビ会議は、**なんて便利なんだろう**と思いました。(中略)また、やりたくなってしまいます。
- ファシリテータM
  - 自宅にいながらにして、空間を越えて会議ができることに驚きました。また、**パワーポイントの画面の美しさ**に驚きました。これなら、**十分今後も使えます**。
- ファシリテータT
  - オフミでの話し合いもよかったです。テレビ会議でのやりとりもそれに負けないくらい、**充実したものになる**ということが分かりました。お互いの顔を見ながら、**パワーポイントの画面も見ながら、話もでき、チャットもできる**…。**どんどん活用**したくなりました。

29

## 第1回目のテレビ会議の感想 ~ 運用面について2 ~

- 参加者H
  - 全体的な感想ですが、**緊張しました**。ハード的に、最後までうまくいくかどうか**不安**でしたが、何とかクリアできて良かったです。
- 参加者N
  - 始め自分は、プレゼン画面の切り替えと会話の**タイミング**がなかなかうまく合いませんでした。
- 参加者O
  - (前略)時間の都合で**ディスカッションは掲示板**になりましたが、それもひとつの**デザイン**で良いなと思いました。

30

## 第1回目のテレビ会議の感想 ~ 内容面について ~

- 参加者T
  - 学校内でさらに推進していくために**理知的アプローチと情緒的アプローチの使い分けが必要**。
  - **カリキュラムの見直しの仕組み**を考えること
  - **自分の学校のカリキュラムを図や表に分かりやすくまとめる**が必要なこと
- 参加者N
  - コーディネーターの役割は、**教員同士を結びつけたり、働きかけたりすることにもあるんだ**なあと感じました。
  - M先生が、メンバーの良いところをとらえて整理して下さったり、**視点を示して下さいました**。私も職場でこんな風にはできたら良いなあと感じました。
  - また、先生方のプレゼンが上手だと思いました。言いたいことを**端的に絞って、写真や図を用い、わかりやすく構成し、自然体**でお話していらっしゃいました。勉強になりました。

### 31 第2回目のテレビ会議の感想 ~ 運用面について ~

- 参加者H
  - テレビ会議に少しずつですが、慣れてきました。やはり、先生方の表情や声から学ぶことができるのはすばらしいと感じました。
  - しかし、考える時間が少ないのでつらいところもあります。
- ファシリテータ
  - テレビ会議でのプレゼンもずいぶんスムーズになり、回数を重ねることのよさを感じました。
  - ただ、4人の発表と話し合いのセットでは、時間的に苦しいなあというのが実感です。話し合いだけをするテレビ会議の機会があれば、課題の考察もより深まると思いました。

### 32 第2回目のテレビ会議の感想 ~ 内容面について ~

- 参加者F
  - 自分のプランの修正点や思いもつかなかった観点をたくさん教えて頂きました。
- 参加者K
  - それぞれの先生方のプレゼンから、自分の考えの及んでいなかった視点をたくさん得ることができました。みなさんさすがだなあと思いました。
  - さらに、研究者Kからいただいた、できていることともっと考えてほしいことは、わたしの頭をすっきりと整理していただきました。自分の至っていないところが、はっきりと認識できました。

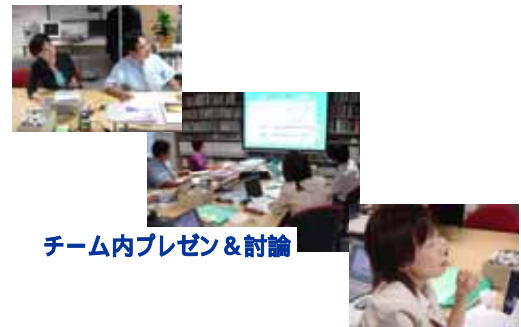
### 33 カリキュラム・コーディネータ養成研修における テレビ会議の活用可能性と今後の課題

- あまりIT活用に長けていない教員でも、テレビ会議に参加し、プレゼンテーションや議論を繰り広げられる。
- しかし緊張感や不安を払拭するには、システム運用のサポーターと実施回数の確保が必要になる。
- 進行役の心理的負担が大きくなり、要望はあっても、一定以上の時間をかけるのは難しいではないか。
- 「楽しい」研修にはなりにくく、この要素を補完する集合研修が欠かせない。



カリキュラム・コーディネータ養成研修では、テレビ会議は名脇役か

### 34 第1回オフミの様相



チーム内プレゼン&討論

### 35 第2回オフミの様相



チーム内プレゼン&討論



チーム間プレゼン&対決



### 36 評価の視点と方法

- 各レポートの記述内容の観点別評価 各課題による知識獲得(目標達成)度の評価
- 自校カリキュラムの改善プランの策定レポートにおけるその「理由」(視点, その関係性)の事前・事後比較 プログラムの効果測定・評価
- テレビ会議システム, 掲示板等における発言頻度, 発言スタイルの分析 システムの運用評価
- 実施者の関わり, 課題内容, 課題解決形式等に関する事後アンケート プログラムの過程評価